

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300709		
法人名	有限会社愛宕福祉サービス		
事業所名	グループホーム愛宕荘(1F)		
所在地	宮崎県延岡市古城町4丁目634番地3		
自己評価作成日	令和2年6月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく笑顔と挨拶で、目配り・気配り・心配りをモットーにしている。また、入居者様の訴えは否定せず全て受容している。環境的に自然がいっぱいで、四季折々の行事や食事を楽しんでいただいている。家庭的な雰囲気を心がけ、できることはお手伝いしていただいている。①認知症になっても、舞台上に立って歌ったり踊ったりすることができることみなさんに知っていただくため、「福祉ふれあい歌と踊りの祭典」を行っている。入居者様、姉妹園の愛宕幼保園児、一般の方150名ほどの参加があり、交流を深めている。②毎月、荘便り、日常生活・行事等のスナップ写真を発行し、ご家族(遠方の方にも)発送している。③毎朝、入浴に関係なく、全員の陰部清拭を行っている。④自家製のヨーグルトを提供している。⑤朝夕の体操、歩行練習、体幹運動等を組み入れ、入居者様の体力の維持増進を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

愛宕山を背に、自然に恵まれた場所に位置している。なお周囲には住宅が立ち並び、恵まれた環境の中に立地している。17年経過したグループホームであり、最高齢者は102歳となり、入居年数が長い入居者が多い。看取りケアも長年、実績があり、希望者には対応している。住宅地に位置しているため、近隣住民との交流、保育園児との交流、日本舞踊のボランティア受け入れなどを計画的に行っているが、コロナ禍の影響により中断している。家族の面会は、面会室があるため消毒の徹底を行い受け入れている。丁寧なケアの提供がなされている雰囲気の中、入居者の笑顔が多くみられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり掲示している。理念は職員間で共有し、理念に基づいたケアが日々実践できるよう取り組んでいる。	わかりやすい理念が、玄関、廊下、階段に掲示され訪問者の目に届く。職員間も周知を図り、理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に入会し、区の情報を得ている。日頃からご近所付き合いを大切にし、夏祭りなどの行事にも招待するなど地域の一員として交流するよう取り組んでいる。	地区会に入会し、地区会費も納めている。地域の一員として朝夕の散歩時等にあいさつができている。若い住民も多くなっているため行事などの案内を行い、積極的な交流に向け努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の啓発として、毎年「福祉ふれあい歌と踊りの祭典」を開催し、地域の方々に認知症についての理解を深めていただいている。また、相談も受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には知見者や周辺地域の区長などにもご参加いただき、様々な意見や提案、情報を受け運営に反映している。	運営推進会議を行うことでグループホームの役割や認知症の理解が深められている。会議が難しい状況の中、愛宕荘だよりを配布するなどして、意見収集に努め、サービスの向上に活かす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の様々な情報や、助言、提案を受けサービス向上に生かしている。運営状況の報告・困りごとの相談等良好な関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは相談しやすい関係が維持できており、不明なことなど電話で相談を行ったり、指導を仰ぐなどができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害について勉強会で学び理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。	職員会議を毎月実施しているが、年間計画に拘束の勉強を組み込んでいる。玄関施錠はない状態で、外出希望がでたら納得するまで職員が付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会時に虐待についての研修を繰り返し行っている。常に注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時に日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはご本人様、ご家族様に十分説明を行い、ご理解・ご納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払いを持参制とし、ご家族様が意見、要望を言いやすい環境、関係づくりに取り組んでいる。出された意見や要望は職員会議で話し合い、サービス向上に生かしている。	利用料の支払いを現金方式にして、毎月、家族と顔を合わせ、話ができるように工夫している。出された意見等は職員会で話し合いを行い、運営に反映させ、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	毎月の職員会には、必ず代表者が出席し、小さな意見も耳を傾けるようにしている。意見を出しやすい関係性の維持に努め、入居者のケアに役立てられるような意見交換ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務年数、所持資格、役職等について把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど職員が向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員が事業所外の研修にも積極的に参加できるように、機会の確保や勤務体制に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しており、他事業所の方と交流、意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時にご本人様より不安、要望等の相談を受け、親身になって関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にご家族様より(ご本人様とは別の場所にて)不安、要望等の相談を受け、親身になって関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人様、ご家族様が必要としている支援について可能な限り対応していくよう努力している。他のサービス利用を必要としているのであれば紹介等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下ごしらえや洗濯物干し、たたみなど、できることは一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただきやすい雰囲気作りを行い、ご本人様とご家族様がよりよい関係を築けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様から、馴染みの人や場所等の情報を得て、関係が途切れないよう、支援に生かしている。	入居者の家族をはじめ、友人・知人等の面会も受け入れている。得意部門のボランティア慰問にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、十分に配慮しながら座席の位置など工夫している。孤立したり、居室にこもってしまうことがないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じてご本人様ご家族様と連絡を取ったり、相談に乗ったりと対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、排泄のタイミングや食事介助の際の細やかな配慮など、ご本人様の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。	排泄チェック票を細かく記入することで、個々人の排泄パターン把握、トイレでの排泄と自立につながるよう心がけている。食事面も細かな配慮を行い、便秘予防につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様よりご本人様の生活歴等聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を把握し、その方に合った一日の過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様と話し合い、職員から情報を収集しながら、現状に即した介護計画を作成している。	細かいアセスメントを行い、不具合の原因を探り、よりよいケアが提供できるように、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報を職員間で共有しながら日々のケア、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など、ご家族様の付き添いができない場合は職員が代行している。また、ご希望に応じ重度化や終末期に向けての支援にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや行政と協働し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が協力医を利用しているが、ご本人様、ご家族様が希望される医療機関の受診も支援している。ご家族様の付き添いができない場合は職員が代行している。	隔週でかかりつけ医の訪問診療が受けられている。急な状態変化時は電話相談を行い薬の処方・往診が受けられる。家族対応が必要な受診もあるが、無理な場合は職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師による健康管理を行っており、異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、病院関係者と話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を作成し、利用開始時に説明、ご家族様の希望や考え方を確認している。看取りの希望がある場合には積極的に関わり、話し合いを重ねながら書面化している。医療機関の協力もある。	長年、看取りケアも行っている。入居時に家族に説明を行い、希望者には時期がきたら丁寧な説明を再度行い対応する。夜間時等、看護師・管理者がいつでも応援できる態勢を作り、職員の不安感解消にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難確保計画を作成し、定期的に訓練を行っている。緊急連絡網を使用した訓練も実施。近隣の方々にも協力が得られるよう声かけを行っている。	地域住民に声かけを行い、訓練を実施する。広いホールの活用もできるため、地域の災害時避難場所として届け出を行い、地域貢献に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者と敬い、誇りやプライドを損ねないような言葉かけや対応をしている。配慮に欠ける時にはその都度確認し改善している。	日々の言葉かけに注意し、時には職員同士で注意し合う。毎月、実施している職員会でも勉強を行い、日々努力につないでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が思いや希望を表せるよう、雰囲気づくりに気を配っている。また、選択肢を提示することで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間など、一人ひとりの生活のペースに合わせている。食事や食べやすい時間に提供できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の訪問や、希望により衣料品、化粧品等の購入も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の有する能力に応じ、食事の下ごしらえ等を手伝っていただいている。現在は入居者様の重度化により刻み食などの食事形態にも対応している。	食事面の工夫を職員皆で話し合い、職員の負担も考慮した食事作りができています。繊維質の多い食事、手作りヨーグルトの提供で便秘予防にもつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事、水分摂取量を記録し、把握をしている。一人ひとりに合った量、食事形態で提供し、食欲低下時には好みの食品や医師と相談しながら栄養補助食品なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけし口腔ケアを行っている。それぞれに合った口腔ケア用品を使用し、義歯の方は夜間預かり、洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を積極的に行っている。夜間は安眠確保を優先し、個人に合わせてオムツとトイレ誘導を組み合わせた支援を行っている。	排泄パターンの把握で一人ひとりの排泄の自立に向けた支援ができています。基本はトイレでの排泄を支援し、プライバシーも完全保持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表に排便状態を記録し把握している。食事に食物繊維の多い食品を使ったり、自家製のヨーグルトを提供するなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて(火・木・土)行っているが、希望や体調に合わせて個々にそった支援をしている。職員2名対応で、安全にゆっくりと楽しんでいた。入浴ができない状態の入居者様には清拭で対応し、清潔の保持に努めている。	基本的には曜日が決まっているが、必要時にはその都度入浴を提供し、清潔保持ができています。拒否がある場合は、時間をおき声かけを行うなど適切に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、午睡の時間を設けている。また、それぞれの希望に応じて随時休んでもいただいたりもしている。朝、起床の声かけを行うが、覚醒されない場合は起床時間を遅らせるなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3回確認を心がけている。服薬時には職員が必ず見守り、介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化のため、できることが少ない方もいるが、その方に合った支援をしている。日常生活では家事を手伝っていただいたり、役割を持って生活していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の行事や系列の保育園などのイベント時には外出支援している。ご本人様の希望があり、職員が対応できない場合はご家族に協力していただくこともある。	施設の理解を求めることも含めて、定期的に保育園児、地域住民との交流なども行ってきたが、コロナ禍の中、できない状態が続いている。子どもとの交流を楽しみにする入居者も多く、社会参加の機会にもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により支援しているが、現在はお金を所持されている方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、観葉植物等を置いている。毎月、季節に合った壁絵を作成し、装飾している。フロアはソファで仕切り、車椅子の移動にも十分な広さを確保している。共用空間の清潔保持に努めている。	季節に沿った壁絵を皆で作り壁に貼っている。入居者の得意な手作りの短歌なども貼られており、華美ではない落ちついた空間の演出になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などで自由に過ごしていた。入居者様同士、馴染みの関係ができており、座席にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や備品を持ち込まれ、それぞれその人らしい居室になっている。遺影を置かれている方には、命日にお供え物を提供している。	家族の写真が多くあり、使い慣れた寝具や備品には職員が手を加え、危険につながらない工夫などが施され、その人らしい居室のしつらえがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ福祉用具を利用したり、安全な環境づくりに努めている。		